

第2回 きれいな海づくり事業 懇談会会議録

日 時	平成 22 年 7 月 25 日 (日) 14:00～17:30
開催場所	日本丸訓練センター 第一、二教室
出席委員	座長：川辺みどり（東京海洋大学准教授） 林 公義（横須賀市自然・人文博物館館長）、檜垣宏子（鶴見川を再発見する会）、吉田 章（筑波大学大学院教授）
開催形態	公開（参加者 32 人）
事務局	横浜市環境科学研究所 橋所長、池見課長、蓮野課長補佐、石井
議 題	1 市民活動の報告（第 2 回生物多様性リレートーク） 2 平成 21 年度 山下公園前海域等における水質浄化実験結果について
議 事	
川辺委員	本日の目的、予定、進め方について説明した。  1 市民活動の報告（第 2 回生物多様性リレートーク） ともに浜をつくる会 NPO法人 未来に残そう青い海 全日本潜水連盟 大岡川ファンクラブ 海をつくる会 が活動報告を行なった。  2 平成 21 年度 山下公園前海域等における水質浄化実験結果について
事務局	平成 21 年度の山下公園前海域で行なった水質浄化実験の結果及び評価について説明し、意見を求めた。
委員のコメント	

林委員

今日、皆さんに日本丸ドッグ内のライブ映像をお見せしたのですが、水の濁りは多かったです。しかし、この時期の外側の海はもっと汚れていると思います。ドッグ内の様々な生き物が、水質浄化をしてくれているということです。

映像を見ていただいて分かりますように、あのエリアの中で生物多様性が完成されています。生物多様性ですから、生物が沢山いればいいというように間違っただけで伝えられることもありますが、ある一定の環境とそのエリアにその中でライフサイクルが出来上がっていることが大事です。居なくなったものを復活させる事はいいのですが、もともと居なかったものをそこに持ち込むことは、生物多様性とは違う考え方になってしまいます。

そこに住んでいる生物が毎日の生活の中で行っている生理的な営みが水質浄化につながる事が目で見て分かったと思います。それを私たちが上手く動かしてあげる事が必要です。

海は広大で、どこから手をつけるのかということもあると思いますが、実験の結果を積み重ねていく事で大きな施策にも対応できると思います。水質浄化実験については、短期間のデータを重要視するのではなく、少し長い目で見たデータを重要視した方が良いかも知れません。横浜の海の生物を上手に活かしていくことが大切です。

檜垣委員

市民活動報告についての感想なのですが、私も市民活動をやっていて、こうしたいと思う事は多いのですが、あきらめる事もとても多いです。しかし、少しでも、実現に近づくと市民のパワーが出てくることを感じますので、ここに浜をつくりたいというような夢から、横浜全体の街づくりに広がっていくのだと思います。

行政の方に提案なのですが、一緒になって街づくりを考えていきたいです

し、行政の方も自分たちでこんな街づくりをしたいというイメージを持ってほしいと思います。市民も、仮の住まいだと思わないで、子供たちを育てるためには、こんな町にしたいと思ってやっていくことが大切です。

鶴見区は自然の海が少ないのですが、小さい干潟を見つけて観察したいなと思っても入ることができないところがほとんどです。企業の敷地だったりして入れませんので、そこを年に1回でも観察させてもらえる機会があったらいろいろな提案も出てくると思います。

吉田委員

生物多様性リレートークという事で、市民活動の内容をお聞かせいただいて、それぞれの活動に身近な視点を持っているということが大事なところだと思いました。

ともに浜をつくる会は、里浜というのが大きなキーワードになっておりました。未来に残そう青い海は、視点をもう少し広くして、海をフィールドにするという視点をお持ちなのかなと思いました。大岡川ファンクラブは、安全の確保を気にされながら自然環境と親しむという活動をされているのだと思いました。全日本潜水連盟は、昔から活動している団体として常にブレない活動をするというところに、そのポリシーがあると思っています。また、海を作る会は、30年間、山下公園前の海で活動されていて、これは実はすばらしい事です。環境問題が今のようにみんなの意識に挙がってない時代から海をなんとかしようということで活動を始め、その活動が模範として伝播するという強いインパクトがありました。

横浜には、ネームバリューがあり、いろいろなことを発信することができます。しかし、浸透させるには長い目が必要です。そんなときに大切なのは、体験というキーワードだと思います。海の汚れを実感して、このままではいけないという考えを持つ事です。多くの子供たちに機会と場を作

っていく事が行政の役目になると思っています。

多くの人それぞれの思いを表現し、それぞれがうまく影響しあい、連鎖することで多様性になっていきます。そのような方向でこれからの横浜の海づくりを考えていきたいと思います。

## 質疑応答

参加者からの意見が記されたポストイットカードの整理を行い、メッセージ、質問、横浜市にやってほしいことなどについて討論し、最後にフォーラムから横浜市への提案をまとめた。

### 「メッセージ」

- ・ 海水浄化を長期に行なう工夫をして下さい。
- ・ 浄化能力の高い海づくりを横浜から発信してください。
- ・ 調査結果を踏まえてきれいな海づくりを行なって下さい。
- ・ 汚れの原因究明、対策のためにもシュミレーション調査が必要。
- ・ 一過性の事業ではなく継続して効果を高めてほしい。
- ・ 横浜港も世界美港のひとつに世界中から認められるようにしてほしい。

### 「質問」

- ・ 生物付着基盤のスラグ製品からの重金属の溶出は大丈夫か。
- ・ 生物が付着するにはどのくらいの期間かかるか。
- ・ 山下公園以外でも浄化実験を行っているか。他にも候補地はあるか。
- ・ 今後も実験を続けるのか。また、トライアスロンを行なう予定はあるのか。
- ・ 港湾局の取り組みは、あるのか。他局との連携はどうなっているか。
- ・ 覆砂した場所のその後の状況はどうか。

<p>吉田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横浜市の汚染源別の汚れの内訳はどうか。</li> <li>・ 環境都市として水をきれいにする取り組みはあるのか。</li> <li>・ プレジャーボートの汚水が海にそのまま流されているが、今後、規制はしないのか。</li> </ul> <p>「提案」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業を継続してほしい。</li> <li>・ 干潟を広げたり、消滅しないようメンテナンスしてほしい。</li> <li>・ 市民参加をもっと勧めることで、もっと豊かな海にしてほしい。</li> <li>・ 横浜型臨海学校を作してほしい。</li> </ul> <p>海の問題は、川の問題、森の問題につながっており、中間地域の生活の問題と連携しなければ解決できないということがあります。そのような「連携」が、キーワードになると思います。行政は縦割り組織でなかなか情報交換されないことが多いのですが、本日のフォーラムでは、環境創造局だけでなく市民局のスポーツ振興課の方も参加されており、連携されていたと思います。市民活動でも海、川、生活など連携を進めることが大事と思っています。本日の提案の実現には、長い目が必要で市民団体もゆとりを持って取り組むことが必要ですが、横浜市は、間違いなく進めてくださると思っています。</p> <p>このフォーラムは、2回目ということで、我々にも具体的な目標が見えてきたと思っています。本日参加された方々は、市の一端を担うという使命と責任をお持ちになっていると思いますので、今後も機会があれば、参加していただきたいと思っています。</p>
<p>資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 21 年度きれいな海づくり事業（山下公園前海域における水質浄化実験概要報告）第 2 回懇談会資料</li> <li>・ 「生物多様性リレートーク」 ・ 「よこはま・未来・うみ」フォーラム</li> </ul>